

国際シンポジウム 後発的移民受入国の国際比較

21世紀の移民受入れ政策をめぐるスペインの経験と日本のこれから

2019年11月16日(土)

一橋大学・国立東キャンパス・2号館・2201教室

日英同時通訳付・要事前申し込み

プログラム

10:00-10:15	オープニング *全体司会 橋本直子(一橋大学) 趣旨説明 小井土彰宏(一橋大学)
10:15-11:45	【基調講演1】 「労働移民と世界経済—スペインと日本の比較」 アレハンドロ・ポルテス(マイアミ大学、プリンストン大学) 【基調講演2】 「スペイン—移民・統合に関する例外的な経験」 ホアキン・アランゴ(マドリード・コンプルテンセ大学)
11:45-13:00	昼食休憩
13:00-14:40	【第1部】 スペイン：移民労働者の包摂と通文化主義的受入れ政策 *司会 堀井里子(国際教養大学) 1. 「EUにおける長期移民に対比しての短期移民の促進政策の矛盾と障害—近年のスペインの経験を焦点として」 アンパロ・ゴンザレス(スペイン高等科学研究院) 2. 「統合と包摂の多様な経路—重層的な政治構造からみたスペインの経験」 ジェマ・ピニョル(ボンパウ・ファブラ大学) *コメンテーター：伊藤るり(津田塾大学)
14:55-17:00	【第2部】 日本：入管法改定が生み出す新たな労働移動と多文化共生の残された課題 1. 「序論：実質的移民政策の展開と新・入管法の課題」 小井土彰宏 2. 「移動の時代における労働力不足から技能形成へ—日本の建設業界の事例」 惠羅さとみ(成蹊大学 アジア太平洋研究センター) 3. 「介護労働市場の危機と移住産業—在留資格の多元化と利権構造」 定松文(恵泉女学園大学) 4. 「“日系人”の視点から見た移民/統合政策—帰国支援事業と日系4世ビザに注目して」 アンジェロ・イシ(武蔵大学) *コメンテーター：アレハンドロ・ポルテス、ホアキン・アランゴ
17:10-18:10	【第3部】 スペインと日本：比較から新たな対話へ *司会 橋本直子

【主催】：国際社会学研究会

【共催】：科研費プロジェクト 基盤研究A「移民受入れ国-送出国の政策相互連関—国際社会学からの比較研究」
一橋大学・大学院社会学研究科

【助成】：国際交流基金、三菱財団

【後援】：移民政策学会

開催趣旨

2018年の出入国管理法の改訂は、日本の実質的移民政策の新段階への可能性を開いた。だが、それを支えるべき原則とその全体像は未だにように見えてこない。その具体的制度化は、各官庁と産業で進行中であり、課題は山積したままといえる。今や、移民の受入れと社会統合を図る制度設計と政策に関する、多角的で公共的な熟議が求められている。このためには、既存の日本での経験を踏まえつつも、それを国際的に相対化して政策構想を行う必要があるだろう。高齢化がすでに進行した段階で、遅れて移民受け入れを開始し、急激に受入数を増やしたスペインの経験は、現在の日本と大きく共通している点で重要である。急激な受入れを経験したスペインが、ごく最近まで大きな紛争を回避しえたのは、その積極的な統合政策による部分が大きく、その政策実践から学ぶべき点は多い。

従来、日本での移民政策についての議論では、英国、フランス、ドイツなどの移民受入れの先発国や合衆国などの移民国の政策が政策形成に参照されてきた。このシンポジウムにおいては、21世紀の最初の10年400万人の移民を受け入れ世界第2位の受入れ国となったスペインとの比較を通じて相互に、その経験を語り、学ぶことを通じて、政策議論に一石を投じることを意図している。しかし、主催者は両国が単に統計的、時期的な類似性を超えて「後発的移民受け入れ国」としての共通条件を持っていると考える。即ち、国際的な先発移民受け入れ国群の政策を学習する機会を持つとともに、先発国で起こる様々な事件や紛争の影響も受けながら政策の形成と実践を行ってきた点で共通の歴史的構造条件を持っている点である。しかし、この2カ国の共通性を認識し、その共通課題と政策の展開の異同について検討する機会は、未だかつてなかった。

この点を克服するため、このシンポジウムでは、スペインの移民政策を設計した中心的研究者であるアランゴ教授、スペインの移民状況を欧州全体の文脈に位置付けて分析を展開するゴンサレス氏、そして反差別戦略の設計を進めてきたピニョル氏を招いて、日本の該当分野の研究者との対話を通じて日本の状況との比較を試みる。さらに、地域を超えた2カ国の研究者を媒介する意味で、国際的な移民に関する理論および経験研究の第一人者であり、両国の移民政策と状況に関心を持つアレハンドロ・ポルテス教授を基調講演者として迎え、スペインの政策と日本の現状とを比較することで、日本の政策形成者、研究者に新たな視座を提供し、創造的な政策議論の活性化を図る。

海外ゲスト

アレハンドロ・ポルテス Alejandro Portes (Princeton University / University of Miami)



国際移民研究の世界的権威であると同時に、経済社会学、発展の国際比較、都市社会学、インフォーマル・セクターの社会学的分析で知られる。特に近年は、移民世代の分節的同化に研究である *Legacies* が世界的に注目され、スペインなど多くの国との比較が行われている。長年の移民研究への貢献により、スペインの最高の文化・学術賞であり国際的に権威あるアストゥリアス皇太子賞・社会科学部門を本年度受賞。

ホアキン・アランゴ Joaquín Arango (Professor of Sociology, Complutense University of Madrid)



スペインの移民研究を長くリードし、ヨーロッパ的な規模で活躍する政治社会学者。初代社会統合全国フォーラムの座長としてスペインにおける2005年以降の移民の社会統合政策の基本デザインの形成に大きく貢献するとともに、多くの移民研究者を育成してスペインの移民研究の基礎を築くことに寄与した。

アンパロ・ゴンサレス Amparo González-Ferrer (Senior Research Fellow, CSIC)



スペイン国立科学研究評議会上級研究員。ヨーロッパへの広範な移民現象の分析で知られるが、近年はEUレベルでの国際共同研究プロジェクトであるTEMPER (Temporary versus Permanent Migration) を主宰し、多様な移民現象における短期移民と長期移民の差について問い直すという試みで注目されている。

ジェマ・ピニョル Gemma Pinyol-Jiménez (Associate Researcher, Pompeu Fabra University)



政策実践においてはスペイン内務省移民担当部長を経験し、現在はバルセロナを拠点に、移民政策、反差別戦略、通文化都市 (Intercultural Cities) プロジェクトのコーディネーターとして、ヨーロッパ規模での研究と政策形成をリードしている。特に反差別を推し進めるための「反うわさ戦略 Anti-Rumours」の立案展開で注目されている。